

# 関東地方整備局管内 工事事故事例 【令和2年度 4月期】



関東地方整備局  
企画部 技術調査課

## ■工事事務発生状況

令和2年4月期(4/1～30)までに、関東地方整備局発注工事において**2件**の工事事務が発生。

	4月発生件数	累計件数
令和2年度 (暫定値)	2 件	2 件
令和元年度	1 件	1 件

本資料においては、発生した事故の一部の事例について、発生事象や発生原因、本来とるべきと考えられた行動、事故を受けて立案された再発防止策等を紹介しています。

# 令和2年4月期 工事事故発生事例

## 【事事故例①】 掘削作業中に既設側溝の側壁が落下し作業員が負傷

工事種別	アスファルト舗装工事	事故発生日	令和2年4月21日	気象条件	晴れ
------	------------	-------	-----------	------	----

### ■事故概要

労働災害 - 資機材等の落下や下敷きで負傷

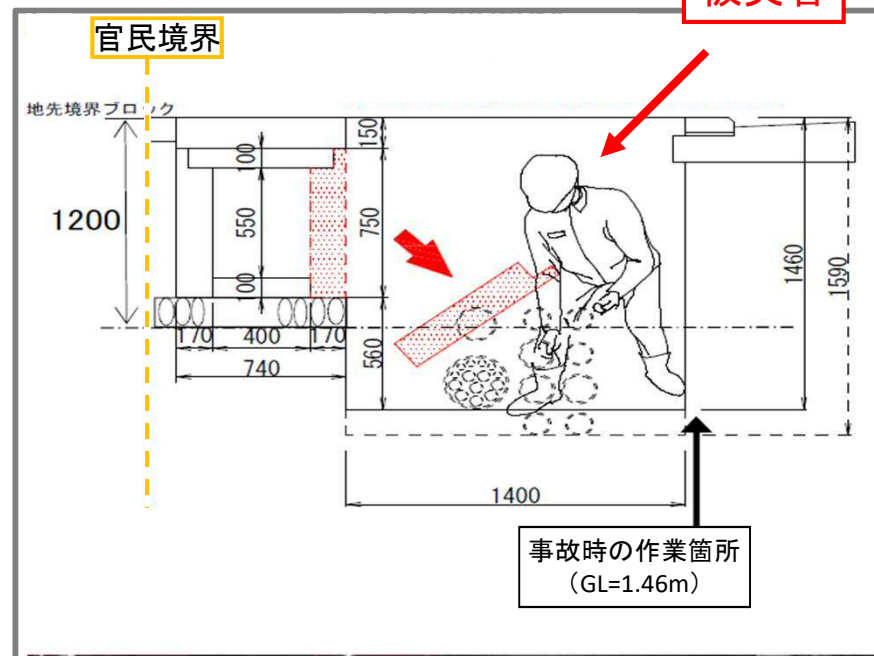
- 被災者は堀山内において、管路工施工に伴う基面整正及び土留め準備作業を行っていたところ、官民境界側にあった既設の現場打ち側溝（無筋コンクリート）の側壁が崩落し、被災者の下半身に落下し負傷した。

### ■事故発生状況

事故状況図



事故状況詳細図



# 令和2年4月期 工事事故発生事例

## 【事故事例①】 掘削作業中に既設側溝の側壁が落下し作業員が負傷

### 発生要因

#### ➤ 既設構造物の調査・確認・検討の不足

既設側溝の現地調査が不足していた。また、既設構造物が近接する場合の周囲の地盤のゆるみ、沈下、埋設物の補強、移設等の施工検討が無かった。

#### ➤ 作業手順書における掘削・土留め作業の記載不足

既設側溝等の構造物がある場合の作業手順について、掘削・土留め作業手順書に記載が無かった。

#### ➤ 思い込みによる作業

既設側溝の状態は前日までの施工実績から構造物や地盤が安定している状態であったことや、既設側溝の側壁と底板が一体化していることについて思い込みで作業していた。

#### ◆本来ならば・・・

- ・ 既設構造物に近接して施工する場合は、影響度合（転倒・崩壊）を十分配慮してから施工するべきであった。
- ・ 作業手順を作業手順書等に明記するべきであった。

↳ 関係法令等：土木工事安全施工技術指針 第2章 第10節 現場管理

### 再発防止策

#### ➤ 既設構造物の調査・確認・影響検討の実施

現地の再調査を行い、調査が不可能な構造物を含め既設近接構造物が存在する箇所の保安措置について検討する。既設構造物付近における施工方法や現場施工時に変更が生じた場合は施工検討を実施する。

#### ➤ 施工計画書における掘削・土留め作業の追記・点検の実施

土留め等の保安対策の設置基準・方法を施工計画書に追記する。

#### ➤ 近接構造物への対策を含めた土留め等についての作業手順書への追記

既存側溝等の近接構造物がある場合の、土留め等保安措置を行う際の掘削深さや手順を明確にし、作業手順書を追記する。

#### ➤ 思い込みによる作業への対策

『地山の掘削・土留め支保工作業主任者』を1名増員し、2名体制で地山の監視を行う。